

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぽぽ 2階		
所在地	〒020-0142 盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	令和6年7月20日	評価結果市町村受理日	令和6年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花壇や周りに様々な花を植えたり、今年からプランターで夏野菜を育て、水やりや草取り収穫など利用者が活躍できる場を提供している。施設内は日が差し込み木がふんだんに使われており温かみのある建物になっている。転倒骨折事故のリスクをクッション床を導入する事により軽減するよう配慮し、緊急避難時に備え各居室にベランダを備えている。感染症への対策として清掃方法は、オフロケーションシステムを導入し掃除用具を色分けするなどし清潔保持や洗浄効果等に配慮している。トイレや浴室、廊下の手すりには防カビ・殺菌・消臭効果を目的として光触媒を加工している。利用者には音楽体操や歩行運動・踏み台昇降などを実施し筋力低下を防ぐ働きかけを行っている。コロナ禍で外出が思うようにできない中でも四季折々の行事を企画したり、おやつレクなど利用者参加型の行事を実施し四季を感じながら楽しめるよう努めている。ホールや廊下に等に利用者と共に手づくりの装飾を施し視覚的にも季節感が味わえる工夫している。利用者は一人一人に合わせクラフト・編み物・塗り絵・パズル等を行いおのびと生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に位置する事業所では、玄関先に花を植えたり、野菜を育てたりして温かみのある外観にも配慮している。運営会社では感染予防対策に特に力を入れ、事業所に掃除専門の職員を配置して徹底した清掃に取り組み、安全で清潔な環境の維持に努めている。また、入浴専門の派遣職員を配置して職員体制を強化し、その他の本来業務や希望休暇取得に配慮するなど、働きやすい職場づくりに会社を挙げて取り組んでいる。食事は本社で作成した献立に加え、利用者と一緒に育てた野菜を調理して提供するなど、利用者の生きがいに繋がる支援に努めており、食事は利用者の楽しみになっている。利用者一人一人の希望に沿った余暇活動を提供し、ほとんどの利用者が日中は共有の空間で思い思いの時間を過ごしている。会社の方針で、事業所運営の透明化に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

「評価機関：特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社共有の理念「私たちはいつもあなたのそばにいて心声を聞いています」を念頭に日々の仕事に取り組んでいる。さらに四半期毎に具体的目標を設定し実践している。また日々の業務の中でも職員同士で意見交換しながらご本人の思いに寄り添えるよう個別ケアに努めている。	「私たちはいつもあなたのそばにいて心声を聞いています」とする会社理念を基本に、リスクマネジメント委員会で4半期毎に行動目標を掲げ、具体的に取り組んでいる。7月～9月の行動目標を「食品衛生と水分補給で脱水予防」とし、取り組み後には問題点などを振り返り次回に活かし、日々実践に努めより良いケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板にて地域の行事・活動等確認している。地域の方々に運営推進委員になって頂き協力や助言を頂いている。又秋祭りで山車を出す際は寄付をし音頭上げをしに来て頂いている。また施設が地域の子供会の「こども110番」になっている。	町内会に加入し、コロナ禍前は町内の住民が事業所に来て一緒に体操するなどの繋がりがあった。今は、主に運営推進会議において介護を必要としている地域住民に呼びかけを依頼して、地域との繋がりを保とうとしている。今後は回覧板を活用して、地域へ情報提供を行うことも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に会長様に提案し町内会でも取り上げていただけるようお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の運営推進委員会は町内会長・民生委員・近隣住民の方に委員に加わって頂き行事や日々の生活状況を報告したり委員からはご意見やアドバイスを頂く等している。	メンバーは、町内会長、町内会総務部長、民生委員、西口地域包括支援センター、家族代表、利用者代表で構成されている。事業所の取り組み内容について報告し率直な意見をいただいている。災害時の避難について具体的な助言を得るなど、支援のさらなる向上に活かしている。また毎月、利用者と家族の代表を入れ替えて出席を案内し、より利用者本位に沿ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員にも委員として参加して頂いている。不明な点については市の担当者に質問・相談し指導して貰っている。様々な情報をメールでもらっている。	市の担当課からはメール等で必要な情報を得ており、担当者とは、質問や相談ができる関係を築いている。西口地域包括支援センターとは運営推進会議でケアや事業所の様々な取り組みについて助言をいただいている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成・身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月に1回以上会議を行いその内容を運営推進会議で報告している。数名足元センサーを使用し転倒防止に努めているが、使用の際はご家族に状況を説明し同意を得ている。防犯の為玄関は施錠している。	身体拘束廃止委員会でマニュアルをもとに研修を実施し、類似行為を例に個別ケアの在り方について職員の理解を深めている。高齢者虐待防止法の考え方についても、学習を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のポスターを掲示、又入浴時には全身観察を行いアザ等が無い確認している。職員相互に言動に不適切な部分が無い確認しながら些細な変化を見過ごさない様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に担当者が市の職員と協力し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分な説明をするとともに疑問や不安感を伺い理解して頂いた上で契約及び退居となっている。また問合わせに関しては丁寧に対応している。改正時は書面で掲示した上で、問い合わせには随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族が委員となっておりそこで直接意見を聞いている。約2カ月に一度「たんぽぽだより」を発行し日常生活の様子やメニューの写真を載せ家族に利用者の近況を伝える様にしている。	面会や外出の際に何気ない会話の中から、意見要望を聞き出すようにしている。また、情報誌やケアプランを発送した際に、近況などを添えて要望などを引き出せるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の意見や要望を聞いている。業務内容や勤務時時間の要望・休み等の意見・要望などがあり反映するようにしている。又36協定の代表職員を通じて要望を聞いている。	管理者は、普段から職員とのコミュニケーションを図り、意見、提案を話しやすい関係の構築に取り組んでいる。年1回の面談の際には契約更新や私的なことなども話し合っている。申し送りノートには気付いたことを各自が書き込めるようにして、業務改善に反映できるように工夫している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がそれぞれの得意分野を活かして働けるよう配慮している。子育て世代には休日希望への配慮職員全体にも希望休の受付をしなるべく希望に添えるように配慮している。お互い気持ちよく働けるような職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技量に合わせた研修に参加できるようにしている。各職員にも教育資料を使って研修したり理解度チェックをする等して研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市やグループホーム協会主催の勉強会等も資料配布のみとなっている。何かあれば同系列のグループホームへ聞き意見を聞いたりしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時・事前調査時に本人や家族の心配事や不安を傾聴し状況把握に努めている。又出来る限りご本人も施設見学に来ていただき不安の解消出来るよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況を把握したうえで困っている事、不安や要望を汲み取り支援の方向を決めている。面会時やお電話で近況報告をし本人・家族の想いを大切に共に考え信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報から入居所のケアプランを作成している。可能な限り本人や家族の希望をいれる様に心掛けている。また生活していく中で必要があれば家族や主治医と相談し必要なサービスを見極める様にしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の個性を活かし今できる所を大切に信頼関係を築きながら職員と共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランやモニタリング・広報等郵送・電話・面会等で施設での生活を報告している。些細なことでも家族に報告し普段の生活ぶりを知って頂くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的をお願いしている訪問福祉床屋の利用を喜んでいる。中々外出ができない中昔の話をする等して馴染みの場所や人・歌等聞き出している。塗り絵を提供し喜んでいただいている。	家族が面会時に近所の方を合わせたいと連れてきたり、通院帰りにお墓参りをしたり、美容院へ家族と外出して食事をしてくる利用者もいる。本人が書いた年賀状を家族に依頼して送ってもらうなど、家族の協力を得て、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じテーブルにしたりお互いに会話し刺激しあって生活できるようにしている。トラブルになりそうときは職員が介入し楽しく生活できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族や本人に合った環境等を紹介し今後のサービス内容の提案を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気なく話した言葉が本人の希望や要望であることがある為見逃さない様にしている。利用者の行動や表情を観察し気が付いたことは業務日誌・申し送りノートに記録し職員間で共有している。	トイレ誘導時や入浴介助で二人きりになった時など、本音をボロリと話すことがあるので、見逃さないようにして、ノートに記載し職員間で共有出来るようにしている。朝に外を見て家に行きたいと呟いた時は、職員と一緒に外気浴を兼ねた庭の草花への水遣りから一日を始めるなどの対応をしている。	
----	-----	--	---	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の生活の様子を家族・担当ケアマネ・本人から伺い日常の会話や行動等から生活歴を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	トータルチェック表をもとに排泄・入浴・食事量の把握に努めている。毎朝の体操時毎食前に行っている口腔体操時の動きや表情、発声の仕方などの変化を汲み取っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中でモニタリングを行い申し送りノートに記載共有し3か月ごとのカンファレンスを行っている。6か月ごとには介護計画の見直しをし作成した介護計画には家族の同意を得ている。	日々の支援について申し送りノートに記載し、3か月毎に利用者担当職員、ケアマネージャー、管理者がケアカンファレンスを行い、その内容を家族に送付して確認してもらっている。6か月毎の介護計画の見直しに際しては、返送する際に添えられる家族の意見や、パソコン上で共有した職員の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護支援経過の記録にて本人の日々の変化を記録し都度対応している。申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用できるサービスの充実を図っている。家族の状況も視野に入れ現状を把握し事業所が出来る事を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染等に配慮しながら行っている。地域で秋祭りの山車を今年も出すとの事で音頭上げに来ていただけるようお願いしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居時の要望に沿っている。家族が元々のかかり つけ医希望であれば受診する際本人の近況報 告を書面で渡したり伝えている。必要に応じ家族 同意のもと専門医(歯科・皮膚科・爪切り)の往診 をお願いしている。家族が高齢や仕事の都合で 受診困難な場合は園で対応している。	利用者は希望に沿って、入居前からのかかりつ け医に継続して受診している。受診する際には、 本人の近況をまとめ、付き添う家族も確認でき るよう封をしない状態で書面を渡している。家族 の付き添いが難しい利用者については、内科、歯 科、皮膚科、フットケアなどの往診やサービス を利用できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	看護師不在ではありますが急変時は協力医の指 示を仰ぎ適切な医療を受けられるよう支援して いる。些細な変化を見逃さず早期発見に努めて いる。緊急性がある場合は救急車の要請をして いる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、又、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は園での生活状況や介護の方法を情報 提供し、入院中でも病院担当者と連絡を取り合 いながら支援している。必要な物を届けたり洗濯 等の支援に努め、退院後はサマリーを活用し症 状の変化に注意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて説明し理解してもらって いる。重症化・終末期に関し終末期には24時間 介護体制が整っていない為事業所では限界がある 事を説明し同意を得ている。	重度化した場合の対応については、看取りに 関する指針に沿って、協力医療機関の協力を得 て対応することとしている。実際に重度化して きた場合には、医師、看護師等の協力のもと できる限りの対応を行なうが、排泄や入浴など の支援が事業所では難しいことを入居時に家 族に説明しており、同意の下で特別養護老人 ホームへの入居申込みを行なった例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成・掲示し職員 間で共有している。定期的に資料を作成しグル ープワークしている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・同じく2回の水害訓練を実施している。盛岡市のシェイクアウトにも参加している。会社としても防災マニュアルを作成している。AEDを常備し災害時用として米・水等の食料品を備蓄している。	年間2回の火災想定避難訓練と、2回の水害想定避難訓練を行なっている。火災避難訓練は夜間を想定し職員2人体制で行なっている。水害訓練は、会社の別事業所に利用者を移送する訓練を実施しているが、状況によっては垂直避難も選択できるよう備えている。非常時には、連絡網に沿って本社と地域住民に応援を要請する体制を整えている。	運営推進会議等で、地域住民へ避難訓練の見守りを依頼するなど地域との協力体制を築かれているが、加えて避難ルートの夜間の危険箇所を再確認し、より安全確実に避難できる取組みを進められることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のこれまでに生活してきた背景を把握し一人一人に合った声かけを行い誇りを傷つけない様にしている。気になる点等は都度申し送りで話し合っている。	利用者の呼称は「さん」で統一し、人格を尊重した声掛けに努めている。失禁した場合には他の利用者に知られないような声掛けを行い、利用者の誇りに配慮している。入浴時の着替えなどは利用者の羞恥心に配慮し、プライバシーが守られる支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクの声かけは個々に合わせ行っている。利用者が日々希望する事や決定が難しい様に選択できるような声掛けで促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごしていただけるようにしている。体調等を考慮・危険がある場合を除き本人の思いに添える様にしている。一緒に生活する中で一人一人の生活リズムは大体把握できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の中から本人が好みの洋服を選んでもらっている。定期的に訪問福祉床屋を利用している。週に一度整容の日を設け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理された献立を作る者が作成し各事業所で食材の調達・調理を行っている。家庭菜園を行い利用者と一緒に水やり・収穫し献立に入れている。毎食前に嚥下体操を行い美味しく食べていただいている。	食事の献立は本社の栄養士が一括して作成し、各事業所で食材の購入、調理を行っている。また、家庭菜園で収穫した野菜をメニューに加え、利用者と一緒に収穫を味わえるようにしている。利用者の楽しみのおやつはすべて手作りで、利用者と一緒に作る機会としている。残食がほとんどなく、美味しい食事を楽しく頂いている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人に合わせた食事量を考え提供している。中々水分を取らない利用者にはスポーツドリンク等を提供し声掛けしている。咽込み等ある方にはトロミ粉を使用している。御自身で食べる事の楽しみを援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや誘導で口腔ケアしている。状況に応じて家族同意の上歯科の往診を受けている。夜間帯は義歯洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立度の高い利用者には定期的な声掛け、介助が必要な利用者には定期的な誘導をしている。排泄チェック表を作成・記録し汚染の軽減ができるよう支援している。	排泄は、時間を決めて声掛けを行っている。排泄チェック表を活用することにより、一人一人の排泄リズムを確認し、下剤調整を行うなどして、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	踏み台昇降や軽体操を行っている。便秘予防のためにヤクルト・牛乳・ヨーグルト・繊維の多い食材等使用するなどしている。又主治医と相談し本人に合った下剤・坐薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2,3日に一度の割合で入浴している。その日の体調や本人の意思を尊重し入浴の声かけを行っている。入浴しない日は就寝前の下着交換と共に清拭温タオルで清拭している。入浴時は職員と利用者が1対1になり、利用者は昔の話をしたり思いで話をしたりと話が弾む大切な時間でもある。	入浴介助のみ支援する派遣職員を配置して職員体制の充実を図りながら、週に2、3回は入浴出来るよう支援している。本人の意思を尊重し、入浴を嫌がる利用者に対しても無理強いすることなく、根気強く働きかけている。1対1になる入浴時間は、ゆったりとした中で、利用者から普段は口にしないような話を聞くことができる貴重な機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後のテレビ視聴や馴染みの利用者との団楽で安心して就寝できるような時間を提供している。また声掛け等もトーンを落とし安心できるように心がけている。室温や湿度調整・居室内の明るさにも気を付け穏やかな気持ちで入眠できるよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方薬を把握する為お薬説明書を職員間で共有している。服薬介助時は確認シートを活用し誤薬のない様努めている。処方薬は鍵のかかる部屋で保管し管理者が配薬した物を職員2人で再チェックし確認している。又服薬後も2人体制でチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を尊重し出来る事はやって頂いている。洗濯たたみ・食器拭き等やって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿う事は難しいが季節を楽しめるよう支援している。家庭菜園を始め水やりや草取り・収穫で外に出る機会も増え喜んでいる。数人ではあるが家族付き添いの受診の際一時帰宅や外食を楽しんでいる。	コロナ禍が収まりつつある中で、少しずつ外気浴や家庭菜園の手入れ、食材の購入に、利用者も職員と一緒に戸外に出ている。かかりつけ医の受診の後、家族と一緒にの外食や一時帰宅を行うことができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に紛失等の理由により利用者の金銭持ち込みは行っていない。家族・本人の希望があり同意を得た方については所持している利用者もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年利用者の手書きの年賀状を送っている。郵便物や贈り物が届いた際はお電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースで快適に過ごせるよう温度・光・音に十分配慮している。食堂・玄関には季節を感じるような装飾、ホールには行事で撮った写真を飾り思い出作りの工夫をしている。	玄関から廊下、食堂に至るまで掃除が行き届き、館内は清潔に保たれている。利用者が多くの時間を過ごす共用空間は広く、明るい採光の下で開放感がある。利用者とともに創作した工作が壁面に飾られ、季節を感じさせる風鈴の音が清涼感を演出している。テーブル席の他に、畳の小上がりスペースがあり、利用者が思い思いの場所で寛げるよう配慮されている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがありそこで足を伸ばしたり新聞を読んだり洗濯たたみの手伝いをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には電動ベッド・クローゼット・パネルヒーターが備え付けである。入居の際使い慣れた物を持参して頂けるようお伝えしている。	入居時に、椅子やサイドテーブルなど使い慣れた家具を自宅から持参している利用者もいる。居室には、利用者の好みのカレンダーを壁に飾るなど、我が家として寛げる居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人にわかる力を活用して生活できるようトイレや居室の文字表示をしている。洗面所にも個人の名前を貼り安全に整容出来るようにしている。居室前の表札を確認し安心して入られる利用者もいる。		